

明治維新の課題を克服した、早矢仕有的

加 来 耕 三

己れの可能性

文明開化の日本にあつて、総合輸入商社を興した早矢仕有的は、明治維新の課題を克服しようとした人物であつた。

幕末、欧米列強の砲艦外交によつて、不平等条約を押しつけられた日本は、貿易の主導権もまた外商たちに握られ、「富国強兵」「殖産興業」の道を事実上、閉ざされていた。

換言すれば、商権回復こそが、明治日本の最大の急務であり、この難題に独自の理念と実行力で立ち向かつたのが、早矢仕有的であつた、といつてよい。

天保八年（一八三七）八月九日、美濃国武儀郡笹賀村（現・岐阜県山県市）で生まれた彼は、先祖の国枝孫十郎が美濃源氏・土岐氏の家来であつたといひ、孫十郎が弓馬に優れ軍功をあげたため、国守の土岐頼芸から「ハヤ・ヤ・ツカマツル」と称賛され、姓を「林」から「早矢仕」に改めた、とそ

の名譽を伝えてゐる。
代はくんだり、有的の母のためは、この早矢仕家の養女であつた。医師の山田柳長に嫁したが、夫は身重の彼女を残して早

世。養家へ戻つた彼女は、夫の死後二ヶ月目に有的を産む。

幼時より祖父や母から、医師になることを期待された有的は、やがて大垣や名古屋に出て医学を学ぶ。嘉永七年（一八五四）、十八歳で一応の学業を修めた彼は、郷里で医師を卒業とすることとなつた。幼名の左京を有的に改めたのは、この時のことである。

だが、そんな有的に、「このまま村で埋もれてはいかん。江戸へ出て大成を期すべきだ」と、隣村の庄屋・高折善六（善兵衛）が親身になつて論してくれた。

万延元年（一八六〇）、有的は江戸での開業にこぎつけ、二年後には薬研堀に独自の診療所をもつた。

その一方では、蘭方医の坪井信道（二代目信良）のもとに入門、日進月歩の医学を修めることも忘れていない。

文久三年（一八六三）、深川伊勢崎町（現・江東区清澄）の旗本・諏訪新吉郎の妹なをと結婚。師の信道の推挙によつて、美濃国岩村藩（三万石）の藩主・松平能登守乗命のお抱え医師となつた。しかし有的には、仕官を喜ぶ気持ちはなかつたようだ。師・信道の死後、有的は彼の実弟・谷信敬の門

下生となった。その信敬は英学の人で、察するに有目的の関心は医術から、海外の知識一般へと移り始めていたのではなからうか。

福澤諭吉との邂逅

慶応三年（一八六七）になって、有目的は突然、医院を閉鎖。谷塾の廃校にもなつて、二月十二日には福澤諭吉の慶應義塾に転出する。ときに福澤三十四歳、有目的は三十一歳。

医学から科学、さらには海外のあらゆるものに目を向け始めた有目的に、福澤は「経済」の何たるかを講義した。そして「会社」というものの存在を教え、ついに有目的は、西洋文明の輸入という、己れに与えられた使命を自覚するにいたる。

明治元年（一八六八）十一月、有目的は横浜の新浜町（現・尾上町）に店を構えた。形は書店である。

このささやかな店舗が、慶應義塾関係の委託販売を引き受け、次には洋学者・柳川春三やなかわしゅんさんさんの著作や新聞の委託販売を担うことにより、次第に店の構えを拡大していく。

有目的は福澤や柳川に助言を求めながら、書籍に加え、医薬品や医療器具の輸入を始める。ここで注目すべきは、この年の正月に定められた『丸屋商社之記』であった。

（前略）今同志数輩ト諮り或ハ元金ヲ出シ或ハ其身ヲ容レテ一商店ヲ開キ丸屋商社ト名ク其元金ヲ出ス人ヲ元金社中ト名ケ其身ヲ容ル、人ヲ働社中ト名ク（『丸善百年史』）

文中の「元金ヲ出シ」とあるのは、資本を出すこと。「身

ヲ容レテ」は労務出資のことであつて、「元金社中」は通常の外株主のことを指し、「働社中」とは社員株主のことである。

丸屋の記録の上では、明治二年正月に横浜新浜町で正式にスタート。翌年には東京日本橋の現・日本橋店の地に進出し、大阪、京都、名古屋と次々に支店を開設していった。

この時期、丸屋商社の日本橋の会社名義人（現在でいう社長）は、「丸屋善七」となつていた。

丸屋は「地球」を意識した、有目的がつけたいわばペンネームで、善七はかつて己れを江戸に出してくれた恩人・高折善六への、感謝の念を忘れまいと命名したという。

そのうちに顧客たちが、「丸善さん」と呼ぶことが多くなり、のちに丸善商社と改称した。丸屋は書籍、薬品、医療器具を主力としつつも、文房具や家具、洋服といった品目も増やし、総合輸入商社として伸びていく。

また、有目的は病院も設立し、為替店から銀行へと衣替えする過渡期などに支援もしている。明治十三年、外国為替銀行としての横浜正金銀行（現・三菱UFJ銀行）の設立にも参画。日本の生命保険制度にも、多大な影響を与えた。同二十六年、商法の施行によって丸善株式会社となる。

明治三十四年二月十八日、有目的は六十五歳の生涯を閉じたが、「士魂商才」（有目的の創語）で突き進んだ生き方は、明治日本に大いなる活力を与えたといえる。

（かく・こうぞう 歴史家・作家）